



**カワラバッタ**

透かし礫層となっている裸地の河原に生息する。植生が密に繁茂する所や、礫間に細粒土砂が堆積する河原には生息しない。



**エゾエンマコオロギ**

別名「カワラエンマコオロギ」とも呼ばれる。透かし礫層となっている河原に生息。植生が密な所や、礫間に細粒土砂が堆積する河原には生息しない。



**オサムシモドキ**

河原・海岸の砂地に生息。成虫は夜行性で日中は砂中にいるとされる。砂地を維持する攪乱がなくなり、植生が繁茂すると生息しなくなると考えらる。

(写真出典 東京大学保全生態学研究室)



**ミヤマシジミ**

幼虫の食餌植物はコマツナギ。河川敷や田畑の畔などの草地に生息する。コマツナギが生育していても高茎草本が繁茂してしまうと生息しない。



**ツマガロキチョウ**

幼虫の食草はカワラケツメイ。河川敷や田畑の畔などの草地に生息する。成虫は明確な季節型を示す(夏型と秋型で違う形態となる)。



**シルピアシジミ♂**

幼虫の食草はミヤコグサ。河川敷や海岸、田畑の畔などの低茎草地に生息。鬼怒川は東北限分布地である他、河川敷に生息する個体群としては関東地方最後のものであり保全の重要性は高い。

河川には、河川特有の環境に応じて、さまざまな生物が生息・生育しています。特に、砂礫の堆積する中流域の河原は、そうした河原に特有な生物の生息・生育場としての機能を果たしています。鬼怒川中流域のれき河原には、左のような河原生物をはじめ、さまざまな在来種がみられるという、シナダレスズメガヤなどの外来植物も侵入しています。

**鬼怒川のれき河原でみられる生きもの**



**れき河原の自然を守る 私たちのシナダレスズメガヤ対策**

— 鬼怒川地域活動の取り組み —

**みなさんも参加してみませんか？**

れき河原生物の保全活動など、鬼怒川流域の環境保全に関する取り組みについては、以下のホームページなどで参加を呼びかけています。ぜひ、みなさんもいっしょに活動しませんか？

- ・ 下館河川事務所 <http://www.ktr.mlit.go.jp/shimodate/>
- ・ うじいえ自然に親しむ会 <http://www16.ocn.ne.jp/~ujiszen/>
- ・ 押上水神会
- ・ さくら市ガールスカウト第20団 <http://www.city.tochigi-sakura.lg.jp/>
- ・ 東京大学保全生態学研究室 <http://www.coneco.es.a.u-tokyo.ac.jp/>
- ・ 栃木県 <http://www.pref.tochigi.lg.jp/>
- ・ さくら市

**鬼怒川の外来種対策を考える懇談会**

事務局：国土交通省 関東地方整備局 下館河川事務所

〒308-0841 茨城県筑西市二木成1753 Tel.0296-25-2161 <http://www.ktr.mlit.go.jp/shimodate/>

# ～なぜ、鬼怒川のれき河原？～ れき河原にしか生きられない生物たちのために れき河原の環境を護る・創る必要がある そのために私たちができること・・・。

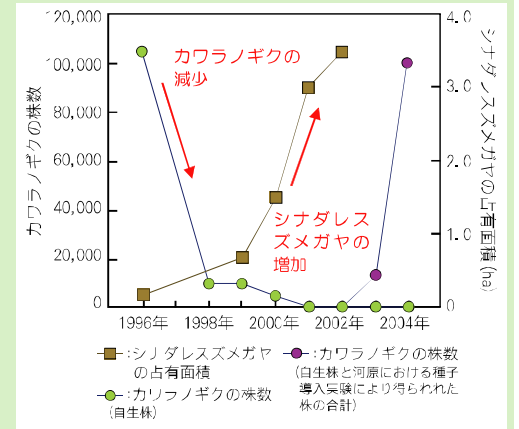


## シナダレスズメガヤってなに？

Q: どこから来たの？  
A: 南アフリカ原産の外来植物です。  
Q: どこに生えるの？  
A: 川のれき河原や砂地に生えます。鬼怒川中流域のある地区の調査では、カワラノギクが96年から2000年にかけて激減したのと前後して急激に生育地を広げています。  
Q: どんな植物なの？  
A: イネ科の多年草で、草丈が60～120cmの大きな株になります。根を砂や小石の中がっちり伸ばすので、大きくなると、洪水でもなかなか流されません。根元に砂をためれき河原の環境を変えてしまい、カワラノギクやミヤコグサ等が育ちにくくなってしまいます。



シナダレスズメガヤ



出典: 東京大学保全生態学研究室

## 私たちが行っていること

### シナダレスズメガヤの除去

鬼怒川のれき河原の環境に直接的な影響を与えている、シナダレスズメガヤの抜き取り作業を行っています。カワラノギクやミヤコグサ等、他の希少な植物まで抜き取らないよう、注意深く、人力で作業を進めています。  
抜き取り作業には、沿川の市民団体が連携して、実施しています。  
(実施時期: 4月～7月初旬、10月、3月)



繁茂するシナダレスズメガヤ



H17.4月

(活動の問い合わせ先: うじいえ自然に親しむ会・押上水神会)

### カワラノギクの播種

カワラノギクは、かつては鬼怒川中流で広くみることができましたが、一時はわずか500株までに減ってしまいました。うじいえ自然に親しむ会や押上水神会などが、東大保全生態学研究室や国土交通省とも連携して、種をまくなどして保全活動に当たっています。  
氏家大橋近くの試験地では、毎年秋に10万株が開花し、かつての鬼怒川の景色が戻つつあります。(播種時期: 4月中旬)



カワラノギク



H18.4月

(活動の問い合わせ先: うじいえ自然に親しむ会・押上水神会)

### ミヤコグサとシルビアシジミの保護

シルビアシジミは、約130年前、さくら市で最初に発見された歴史を持ち、市の天然記念物となっています。シルビアシジミは、ミヤコグサを食草としていますが、シナダレスズメガヤの繁茂によってその生育地が激減しています。  
地域のシンボルでもあるシルビアシジミとその生育環境を守るため、ミヤコグサの生育地と蝶の保護活動を行っています。  
(ミヤコグサの開花時期: 春～秋 シルビアシジミ出現時期: 5月～10月)



シルビアシジミ♀



(活動の問い合わせ先: うじいえ自然に親しむ会・押上水神会)



シナダレスズメガヤ除去とカワラノギクの保護活動に積極的に取り組んでいる  
押上水神会 長島久伸代表世話人

河原環境の保護活動に地域の先頭になって幅広く取り組んでいる  
うじいえ自然に親しむ会  
加藤啓三会長



社会貢献の一環として活動に積極的に協力している  
さくら市ガールスカウト第20団  
小倉桂子代表



れき河原の活動全般に対して専門家としてアドバイスする  
東京大学保全生態学研究室  
鷲谷いづみ教授



### 鬼怒川の外来種対策を考える懇談会

市民団体相互の連携や、専門家や国、自治体とも一緒になって取り組みを進めていくため、懇談会に参加して、積極的に意見交換や情報の共有を進めています。



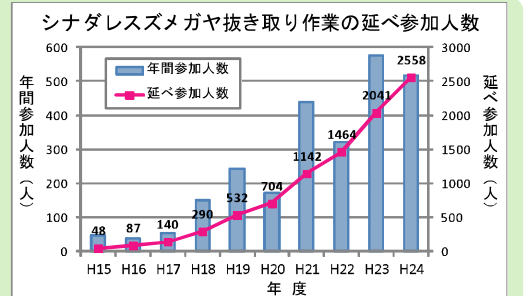
H24.2月



(問い合わせ先: 国土交通省下館河川事務所)

### 広がる活動の輪

活動の輪は毎年着実に広がっています。平成15年度に始まったシナダレスズメガヤの抜き取り作業には、毎年多くの方が参加しています。これまで(平成24年度)の延べ参加者は、約2500人となっています。



一緒にはじめませんか？

～私たちの鬼怒川で会いましょう～